

実施日：令和8年6月2日（火） コマ：3

事業名：次世代コンテナターミナルの構築に向けた港湾技術開発に必要な経費

【とりまとめコメント】

・効果発現の経路はある程度見えてきたと考えられる。初期アウトカムは研究開発の進捗状況、中期アウトカムは現場での実装件数・普及状況、長期アウトカムは技術開発テーマ導入による効果（効率化・高度化・安全化等）を示す方向で進めるべき。今後は研究開発費用の妥当性の検証も進めてほしい。

・技術開発のプロセス、目標、評価も経過とともに改善されており、大きな変更は必要ない。（研究開発の当初は想定していなかった）副次的効果も拾えるような総合評価の余地をどこかに残していただければと思う。第三者評価を経て改善を重ねるという仕組みは重要かと思う。単独指標とはならないまでも、研究（成果）へのアクセス数を拾えると、（本事業や本事業に基づく研究に対する）社会的関心やニーズの確認にもつながると感じた。

・これまで10件の案件を採択しその社会実装化を支援する取組とのことで、多角的視点からの開発への支援が行われていると理解した。定量的効果測定の見え方も個別案件ごとに考えられているのは評価できる。引き続き精緻な（効果の）測定をお願いしたい。

・港湾分野における生産性向上・労働環境改善を目的とした技術開発なので、アウトカムとしてはそれに資するものが相応しい。中期アウトカムとしては資料7ページにあるような定量的な効果測定がわかりやすいし、長期アウトカムとしては開発した技術によって複数港湾において資料7ページの効果が広く発現することを目安とすべきと考える。

・中長期アウトカムについて、（現在の）複合要因で決まる指標から、本制度単体での寄与を図る指標への改善を志向されており、賛同する。アウトプット偏重で効果の測定が弱い印象もあったが、今回定量的効果の考え方が示され、今後は申請時に開発効果を求めることも検討されており、アウトカムとしての採用も検討することが望ましいのではないかと。

・短期的には、個別の技術開発の結果（i.e. 実装件数、企業により採択された件数等）をアウトカムとし、長期的には、かかる技術が当該技術に関連する点で港全体の効率化にどこまで繋がったかというアウトカムを設定し、短期的な個別の視点だけでなく、長期的にどこまで技術が広がり得るか、汎用性が見込めるか等の視点に立ってより広く効果が見込める技術開発を採択すべき。

・中長期のアウトカムの変更案に賛成する。その上で重要なのは、社会実装による具体的メリット、ブレイクダウンすれば、①当該技術の定量的効果の見える化、②当該コンテナターミナル（全体が不適當なら技術が導入された場所（例ヤード）の港湾労働者の人数、取扱数量（総量及び一人当たり）、労働時間、事故件数など、当該コンテナターミナルにおける「生産性向上と良好な労働環境改善」がどうはかられているかの見える化が重要。

【外部有識者のその他コメント】

なし

（以上）